

水道事業ガイドラインに基づく業務指標の大都市比較について

「水道事業ガイドライン」は水道事業におけるサービス水準を定量化（数値化）して評価するための業務指標として、公益社団法人日本水道協会が定めた規格です。

以下の表は、業務指標の中から本ビジョンで目標として掲げた指標を抽出し、令和4（2022）年度の全国19大都市平均値と比較したものです。

【図表 50】主な業務指標の札幌市と大都市平均の比較

業務指標	札幌市 R5(2023) 実績	札幌市 R16(2034) 目標	大都市平均 R4(2022) 実績	指標の解説
浄水施設の耐震化率	21.3%	36.9%	46.9%	全浄水施設能力に対する耐震対策が施されている浄水施設能力の割合 【高い方が望ましい】 ※本ビジョンの指標は「浄水場の耐震化率」としている。
漏水率	2.3% (過去5年平均)	2.3%以下維持	4.5%	配水量に対する漏水量の割合 【低い方が望ましい】
管路点検率	73.5% (過去5年平均)	75%以上維持	39.4%	管路延長に対する1年間で点検した管路延長の割合 【高い方が望ましい】
浄水場事故割合	0件	0件維持	0.2件	直近10年間に浄水場が事故で停止した件数の1浄水場当たりの割合 【低い方が望ましい】
給水収益に対する企業債残高の割合	134%	236%以下	272.7%	給水収益に対する企業債残高の割合 【低い方が望ましい】
内部研修時間	25.1時間	26.0時間 (10年平均)	18.7時間	職員1人当たりの研修の受講時間 【高い方が望ましい】 ※本ビジョンの指標は内部・外部研修時間を合算して「研修時間（職員1人当たり）」としている。
外部研修時間				